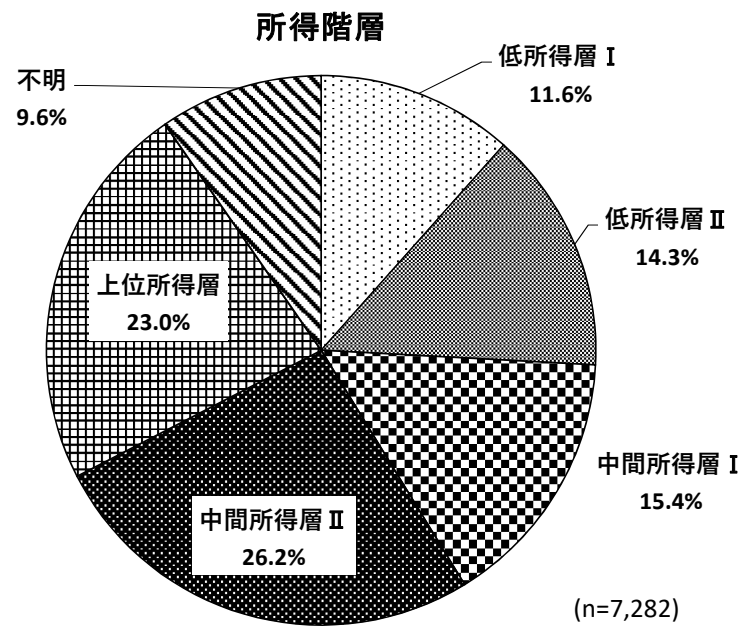


市民アンケート中間報告概要

調査回答世帯の所得階層の分布について

- 調査回答世帯の所得階層の分布は、下図のとおりであり、中間所得層Ⅱが26.2%と最も多かった。
- 低所得層Ⅰは11.6%、低所得層Ⅱは14.3%であった。



※「不明」には、無回答のほか、回答の判別がつかないものを含んでいる。以下のページにおいても同じ。

所得階層区分について

同じ所得でも世帯人数によって、生活水準が変わるため、世帯人数による調整を行った「相対的貧困線※」を基準とした階層区分を用いている。
 ※等価可処分所得(1人あたりの手取り収入)の中央値の2分の1の金額(127万円)。国民生活基礎調査(2019年)のデータを用いている。

階層区分の名称	所得が相対的貧困線の何倍であるか	所得
低所得層Ⅰ	1.0倍未満の世帯	↓ 低 高
低所得層Ⅱ	1.0～1.4倍未満の世帯	
中間所得層Ⅰ	1.4～1.8倍未満の世帯	
中間所得層Ⅱ	1.8～2.5倍未満の世帯	
上位所得層	2.5倍以上の世帯	

※国の子どもの貧困率等のもとなる国民生活基礎調査では、詳しい聞き取りの方法により可処分所得の回答を得ているが、本アンケート調査では、年間収入から可処分所得を推計しており、調査・集計方法が異なるため単純な比較はできない。

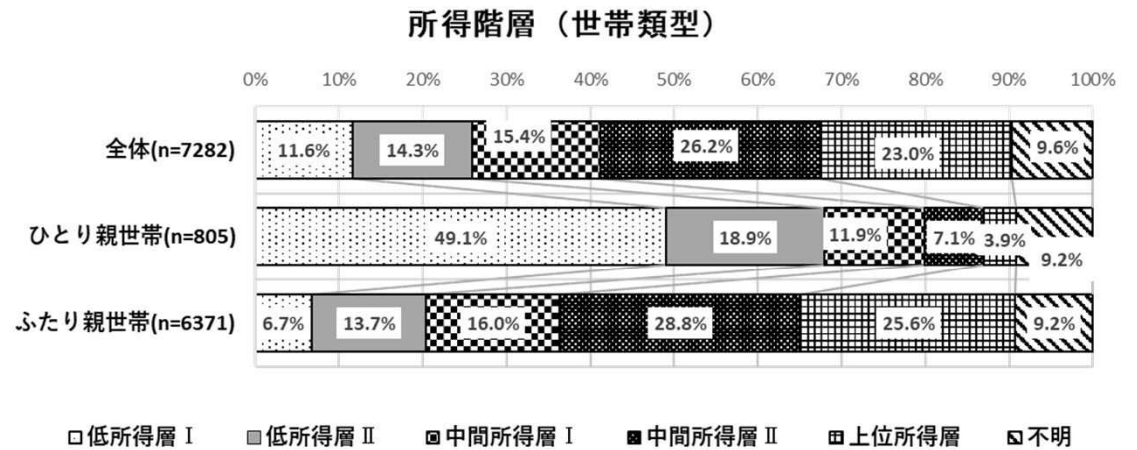
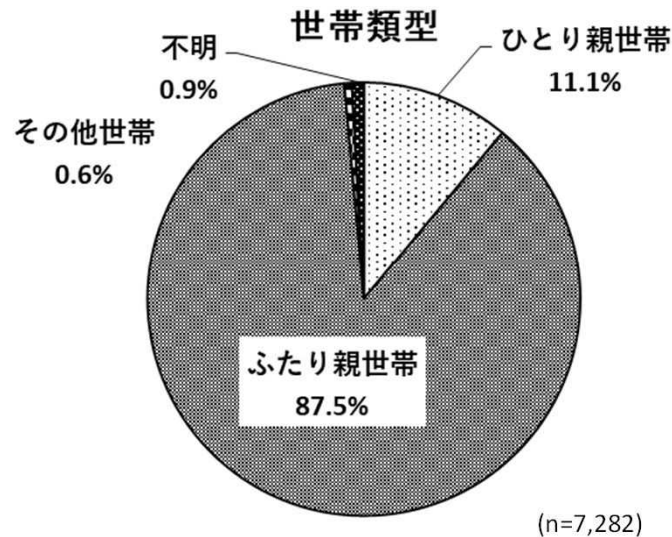
市民アンケート中間報告概要

調査回答世帯の世帯類型について

- 世帯類型別にみると、回答者のうち、ひとり親世帯は11.1%、ふたり親世帯は87.5%であった。
- ひとり親世帯の49.1%が低所得層Ⅰであり、ふたり親世帯の6.7%と比較し、所得がより低い方に分布している。

※「家族に含まれる人の組み合わせ」

- ①「ひとり親世帯」:「母+子」、「母+子+祖父母(祖父のみ、祖母のみの場合を含む。以下同様)」、「父+子」、「父+子+祖父母」
- ②「ふたり親世帯」:「父+母+子」、「父+母+子+祖父母」



※ひとり親世帯とふたり親世帯の母数(回答世帯数)には8倍近い開きがある。
 また、実数で見ると、低所得層Ⅰに含まれる世帯数はふたり親世帯(426世帯)の方が、ひとり親世帯(395世帯)をやや上回っている。

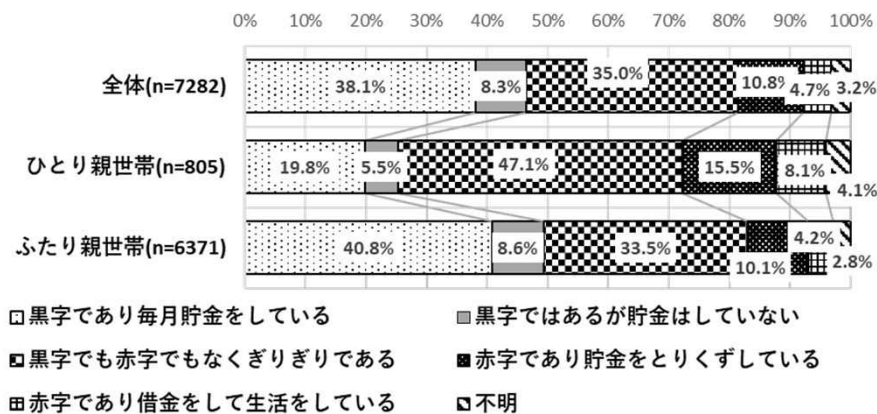
市民アンケート中間報告概要

家計の状況について ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

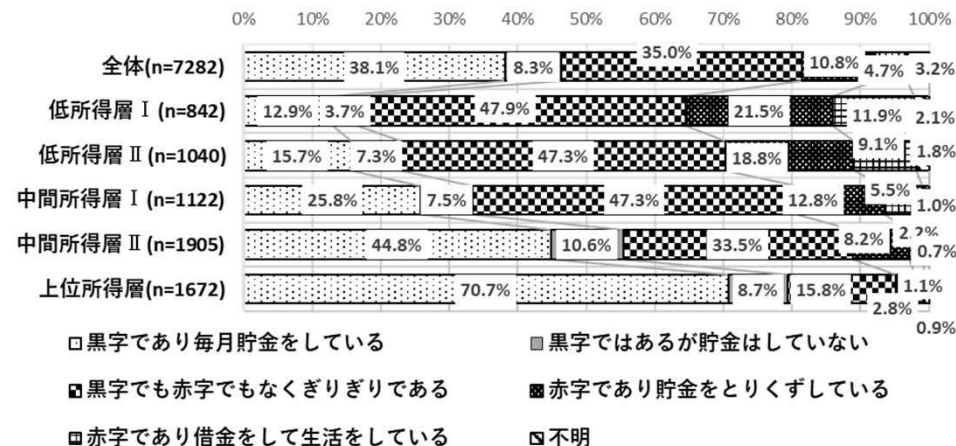
●世帯全体では、「赤字で貯金を取りくずしている」「赤字で借金をしている」と回答した割合は、15.5%（10.8%＋4.7%）である。

●ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯に比べて、「赤字で貯金を取りくずしている」「赤字で借金をしている」の割合が高い。また、ひとり親世帯では「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」が47.1%と最も多いが、ふたり親世帯では「黒字で毎月貯金をしている」が40.8%と最も多い。

家計の状況（世帯類型）



家計の状況（所得階層）



※住宅ローンや車のローンなども支出に含める

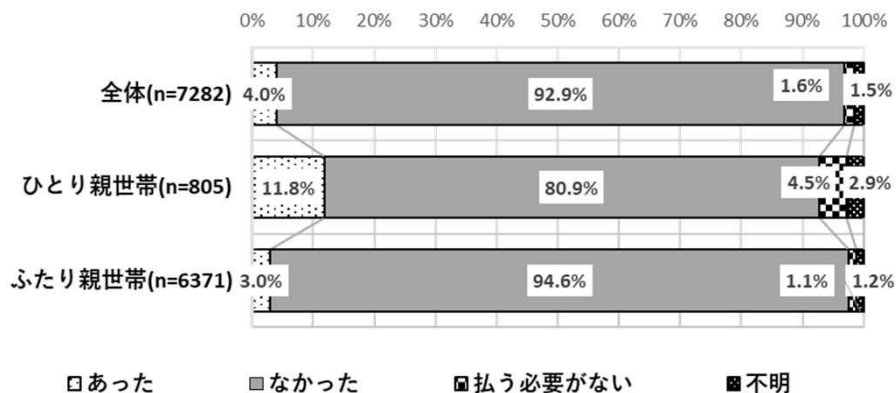
市民アンケート中間報告概要

経済的な理由により、電気、ガス、水道のいずれかの料金の支払いができなかった経験

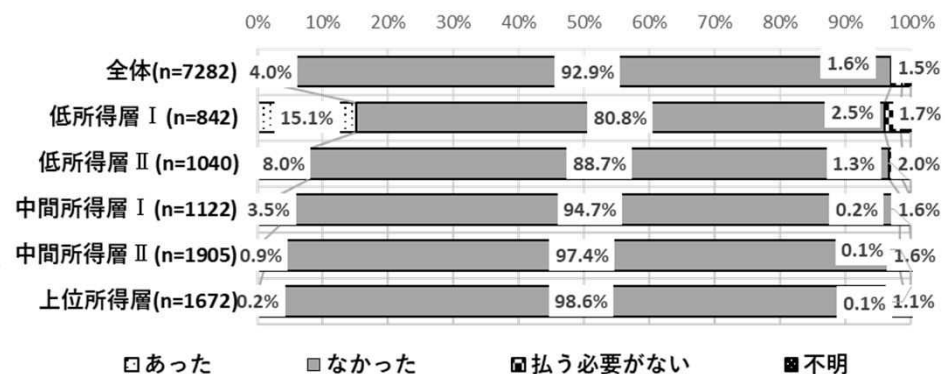
※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 世帯全体では、支払えないことが「あった」と回答した割合は、4.0%である。
- ひとり親世帯の11.8%に支払いができなかった経験があり、ふたり親世帯の3.0%に比べて、かなり高いと言える。

電気、ガス、水道の支払い滞納状況（世帯類型）



電気、ガス、水道の支払い滞納状況（所得階層）

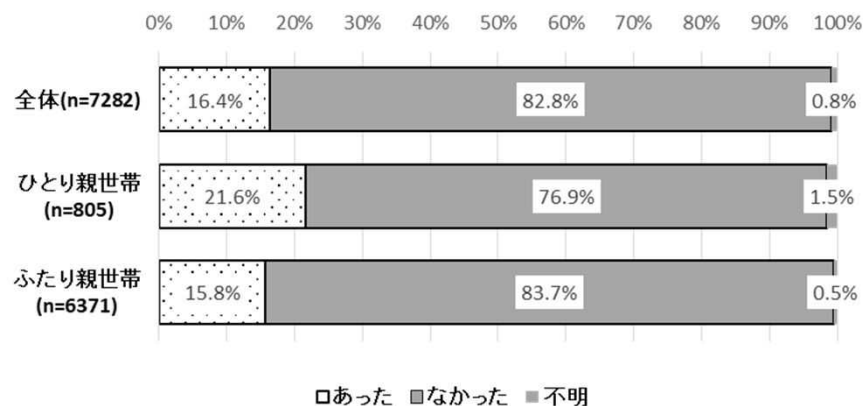


市民アンケート中間報告概要

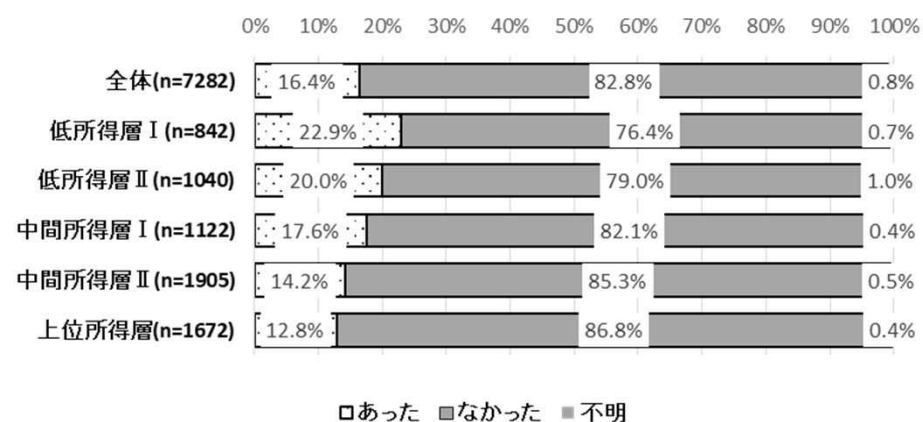
子どもに必要な病院受診をさせなかった経験 ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 世帯全体では、「子どもに必要な病院受診をさせなかった経験」がある世帯は16.4%であり、中学2年生でやや高い傾向にある。【小5:16.9%、中2:19.0%、高2:17.6%(グラフは省略)】
- ひとり親世帯がふたり親世帯に比べて、「子どもに必要な病院受診をさせなかった経験」のある割合がやや高い。
- 所得階層が低くなるほど、「子どもに必要な病院受診をさせなかった経験」のある割合が高くなる傾向にある。

子どもに必要な病院受診をさせなかった経験(世帯類型)



子どもに必要な病院受診をさせなかった経験(所得階層)



市民アンケート中間報告概要

進学に対する希望 ※ 小5、中2、高2の子どもが回答

- 「どの段階まで進学したいか」について、世帯全体では、約5割の子どもが「大学またはそれ以上」と回答した。
- 「高校まで」と回答した割合は、世帯全体では8.8%であるが、学年が上がるごとに回答した割合は低くなっている【小5:11.3%、中2:9.5%、高2:5.2%(表は省略)】。
- ひとり親世帯で「大学またはそれ以上」を希望する子どもは42.5%と、ふたり親世帯の54.8%に比べて、相対的に低い。
- 所得階層別にみると、低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰでは、約4割の子どもが「大学またはそれ以上」を希望しており、上位2層(上位所得層、中間所得層Ⅱ)は、「大学またはそれ以上」の希望がそれぞれ67.3%、56.0%と、低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰに比べて高い。

	どの段階まで進学したいか								
	中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明	
全体(n=3513)	0.3%	8.8%	1.5%	1.3%	10.4%	51.9%	25.1%	0.7%	
世帯類型	ひとり親世帯 (n=496)	0.4%	11.5%	1.4%	1.6%	17.5%	42.5%	24.2%	0.8%
	ふたり親世帯 (n=2737)	0.3%	8.0%	1.6%	1.2%	8.8%	54.8%	24.8%	0.5%
	どの段階まで進学したいか								
	中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明	
全体(n=3513)	0.3%	8.8%	1.5%	1.3%	10.4%	51.9%	25.1%	0.7%	
所得階層	低所得層Ⅰ (n=420)	0.5%	14.3%	2.1%	1.4%	13.6%	40.5%	26.4%	1.2%
	低所得層Ⅱ (n=430)	0.2%	12.8%	0.7%	0.7%	12.6%	43.0%	29.5%	0.5%
	中間所得層Ⅰ (n=461)	0.0%	9.5%	1.7%	2.0%	12.4%	42.5%	31.5%	0.4%
	中間所得層Ⅱ (n=841)	0.5%	7.5%	1.5%	1.1%	9.6%	56.0%	23.4%	0.4%
	上位所得層 (n=790)	0.0%	3.8%	1.5%	1.0%	5.4%	67.3%	20.5%	0.4%

※「中学まで」は小5・中2のみが回答

市民アンケート中間報告概要

進学に対する希望 ※ 小5、中2保護者が回答

- 「子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか」について、世帯全体では57.6%が「四年制大学またはそれ以上」、6.8%が「高校」と回答した。
- ひとり親世帯では、「四年制大学またはそれ以上」と回答した割合は48.1%と、ふたり親世帯の59.7%に比べて相対的に低く、「高校」と回答した割合は10.5%と、ふたり親世帯の5.9%に比べて、相対的に高い。
- 所得階層が高くなるほど、「四年制大学またはそれ以上」と回答する者が多くなり、所得階層が低くなるほど、「高校」と回答する者が多い。

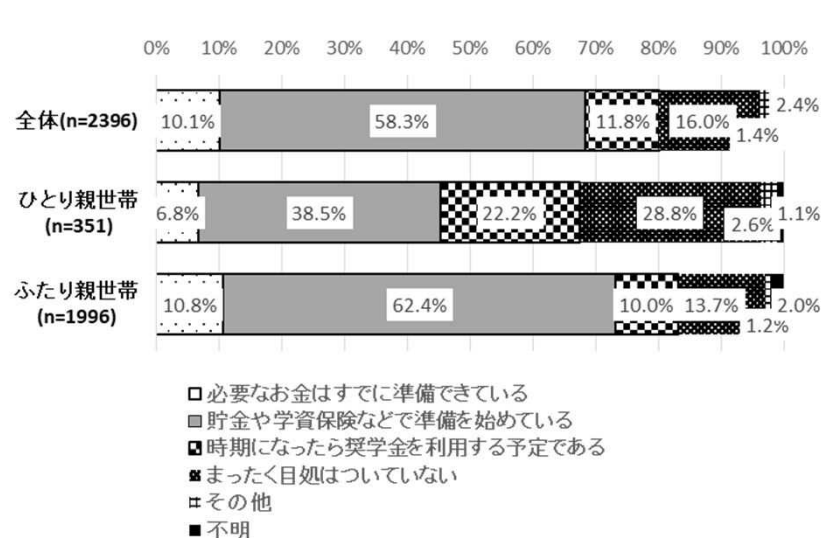
		子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか									
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他	不明	
全体(n=2396)		0.3%	6.8%	1.3%	2.2%	7.6%	57.6%	19.4%	2.5%	2.3%	
世帯類型	ひとり親世帯 (n=351)	0.9%	10.5%	2.3%	1.7%	11.1%	48.1%	19.9%	4.0%	1.4%	
	ふたり親世帯 (n=1996)	0.2%	5.9%	1.1%	2.3%	7.1%	59.7%	19.5%	2.3%	2.2%	
		子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか									
		中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他	不明	
全体(n=2396)		0.3%	6.8%	1.3%	2.2%	7.6%	57.6%	19.4%	2.5%	2.3%	
所得階層	低所得層 I (n=298)	0.7%	17.8%	3.0%	2.3%	10.7%	36.9%	22.5%	3.4%	2.7%	
	低所得層 II (n=323)	0.0%	9.9%	1.5%	2.5%	12.4%	43.7%	23.8%	3.7%	2.5%	
	中間所得層 I (n=363)	0.0%	8.5%	2.2%	3.3%	10.2%	47.7%	22.0%	3.6%	2.5%	
	中間所得層 II (n=600)	0.5%	4.5%	0.8%	2.2%	6.8%	66.2%	16.2%	0.8%	2.0%	
	上位所得層 (n=571)	0.2%	1.2%	0.4%	1.2%	3.2%	79.0%	12.3%	2.3%	0.4%	

市民アンケート中間報告概要

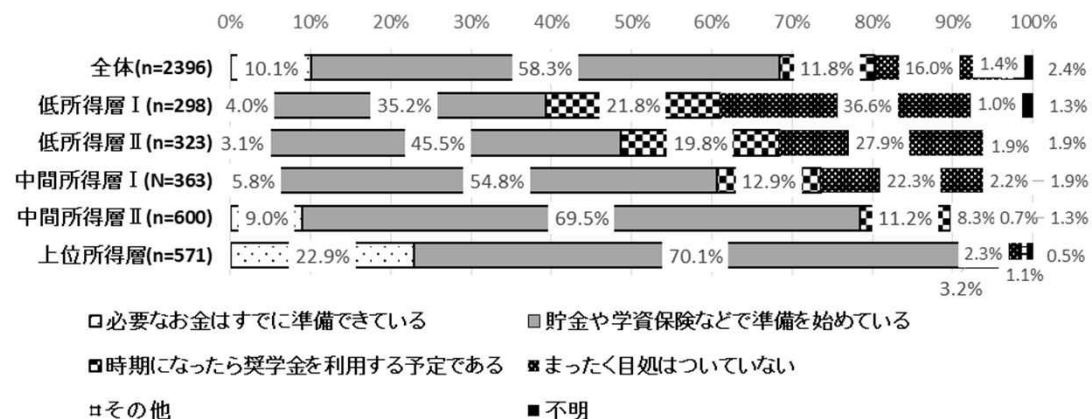
教育を受けさせるためのお金の準備 ※ 小5、中2の保護者が回答

- 世帯全体では、「貯金や学資保険などで準備を始めている」と回答した割合は、58.3%である。
- ひとり親世帯では、ふたり親世帯と比べて、「貯金や学資保険などで準備を始めている」との回答が少なく、「時期になったら奨学金を利用する予定である」、「まったく目処はついていない」という回答が多い。
- 所得階層が低くなると、「時期になったら奨学金を利用する予定である」、「まったく目処はついていない」という回答が多い。特に、低所得層Ⅰでは、3割を超える世帯が「まったく目処はついていない」と回答している。

教育を受けさせるためのお金の準備(世帯類型)



教育を受けさせるためのお金の準備(所得階層)



市民アンケート中間報告概要

子ども・子育てについての悩みを相談する相手について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 回答者のほとんどに何らかの相談相手がい、「相談する人はいない」と回答した割合は2.5%である。
- しかし、ひとり親世帯では「相談する人はいない」が7.6%と、ふたり親世帯の1.9%と比べると、相対的に高い。
- 相談相手は、74.2%が「同居の家族」、63.7%が「同居していない家族・親戚」と高い比率を示しており、家族、親族が相談相手として選ばれることが一般的といえる。
- 所得階層別にみると、「相談する人はいない」が、上位所得層では1.3%であるのに対し、低所得層 I では5.0%と、所得階層が低くなるほど、社会的に孤立する可能性が高くなると考えられる。

		子ども・子育てについての悩みを相談する相手											※複数回答
		同居の家族	同居していない家族・親戚	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	
全体(n=7282)		74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%	0.9%
世帯類型	ひとり親世帯(n=805)	26.1%	54.8%	36.8%	3.5%	52.7%	17.5%	3.4%	7.0%	2.2%	1.9%	7.6%	1.5%
	ふたり親世帯(n=6371)	80.5%	65.1%	30.4%	7.0%	52.5%	25.4%	3.0%	5.5%	2.0%	1.4%	1.9%	0.7%
		子ども・子育てについての悩みを相談する相手											※複数回答
		同居の家族	同居していない家族・親戚	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	
全体(n=7282)		74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%	0.9%
所得階層	低所得層 I (n=842)	49.4%	55.7%	29.5%	5.5%	51.5%	20.1%	4.0%	5.9%	3.2%	2.0%	5.0%	1.0%
	低所得層 II (n=1040)	71.6%	66.2%	28.0%	6.0%	55.2%	24.9%	3.8%	5.2%	3.5%	0.9%	3.6%	0.9%
	中間所得層 I (n=1122)	76.3%	67.4%	31.6%	7.1%	53.8%	25.8%	3.7%	6.1%	1.7%	1.5%	2.0%	0.4%
	中間所得層 II (n=1905)	79.7%	65.7%	33.2%	6.5%	53.8%	26.2%	2.9%	5.6%	1.8%	1.3%	2.0%	0.3%
	上位所得層 (n=1672)	81.7%	62.7%	34.2%	7.1%	50.8%	25.7%	2.5%	6.0%	0.9%	1.8%	1.3%	0.2%

市民アンケート中間報告概要

子育てに関する制度やサービスの利用状況(子ども食堂) ※ 2歳、5歳、小2、小5、中2の保護者が回答

●世帯全体では、「利用する必要がなかった」が約8割を占めたが、ひとり親世帯、低所得層はそれぞれ、61.5%、62.0%と、他の世帯と比較し、潜在的なニーズがうかがえる。

●「利用する必要がなかった」以外の利用していない理由については、特にひとり親世帯や低所得層について「制度やサービスについてまったく知らなかった」、「利用の仕方がわからなかった」、「制度やサービスがなかった」が、他の世帯と比較し相対的に回答した割合が高く、支援につながりにくい傾向がうかがわれる。

		子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●子ども食堂									
		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明	
世帯類型	全体(n=6174)	3.0%	76.9%	0.3%	0.8%	2.0%	4.7%	6.0%	3.2%	3.1%	
	ひとり親世帯(n=623)	3.2%	61.5%	0.3%	1.4%	5.0%	7.2%	9.6%	6.9%	4.8%	
	ふたり親世帯(n=5467)	3.0%	78.9%	0.3%	0.7%	1.7%	4.5%	5.6%	2.8%	2.7%	
		子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●子ども食堂									
		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明	
所得階層	全体(n=6174)	3.0%	76.9%	0.3%	0.8%	2.0%	4.7%	6.0%	3.2%	3.1%	
	低所得層 I (n=693)	4.2%	62.0%	0.1%	0.9%	5.1%	8.1%	10.0%	6.1%	3.6%	
	低所得層 II (n=909)	3.2%	71.7%	0.9%	1.8%	3.0%	5.1%	8.4%	3.4%	2.6%	
	中間所得層 I (n=999)	3.5%	77.4%	0.3%	0.7%	2.0%	5.7%	5.2%	3.4%	1.8%	
	中間所得層 II (n=1616)	2.4%	81.8%	0.1%	0.8%	1.1%	3.8%	5.6%	3.0%	1.5%	
	上位所得層 (n=1399)	2.8%	85.2%	0.1%	0.4%	1.0%	3.1%	3.6%	2.3%	1.4%	

市民アンケート中間報告概要

子育てに関する制度やサービスの利用状況(無料の学習支援) ※ 小2、小5、中2の保護者が回答

●世帯全体では、「利用したことがある・利用している」の回答は2.0%であるが、ひとり親世帯は6.4%、低所得層は5.0%と、他の世帯と比較し利用している実態にある。また、全体の約7割の者が「利用する必要がなかった」と回答しているが、ひとり親世帯は47.7%、低所得層は49.3%と、他の世帯と比較し、潜在的なニーズがうかがえる。

●「利用する必要がなかった」以外の利用していない理由については、「子ども食堂」と同様に、特にひとり親世帯や低所得層について「制度やサービスについてまったく知らなかった」、「利用の仕方がわからなかった」、「制度やサービスがなかった」が、他の世帯と比較し相対的に回答割合が高く、支援につながりにくい傾向がうかがわれる。

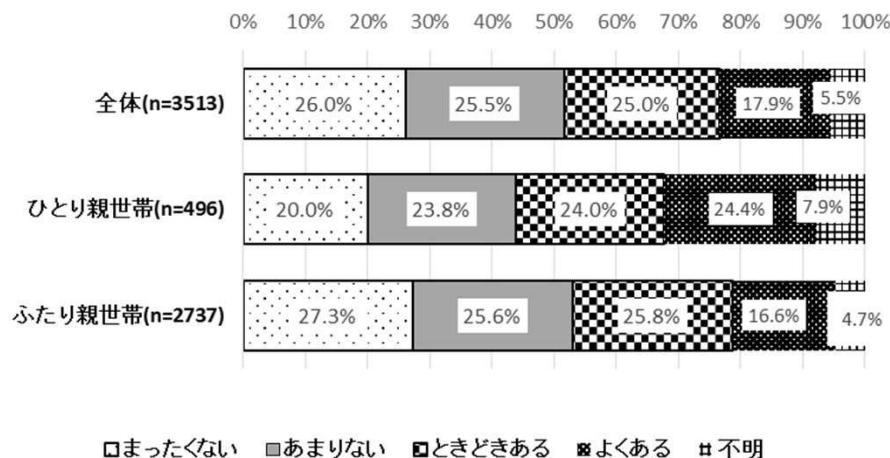
		子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●無料の学習支援								
		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体(n=3645)		2.0%	66.4%	0.5%	1.0%	1.1%	5.0%	15.6%	4.4%	4.0%
世帯類型	ひとり親世帯(n=470)	6.4%	47.7%	0.2%	3.4%	3.8%	8.7%	19.8%	5.1%	4.9%
	ふたり親世帯(n=3116)	1.4%	69.6%	0.5%	0.6%	0.7%	4.4%	15.0%	4.2%	3.5%
		子育てに関する制度やサービスの利用状況 ●無料の学習支援								
		利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体(n=3645)		2.0%	66.4%	0.5%	1.0%	1.1%	5.0%	15.6%	4.4%	4.0%
所得階層	低所得層Ⅰ(n=438)	5.0%	49.3%	0.2%	3.0%	4.3%	8.7%	20.8%	4.3%	4.3%
	低所得層Ⅱ(n=496)	4.0%	57.7%	1.0%	1.8%	1.8%	5.4%	19.4%	5.6%	3.2%
	中間所得層Ⅰ(n=556)	1.6%	64.4%	0.9%	0.5%	0.9%	6.1%	18.7%	4.7%	2.2%
	中間所得層Ⅱ(n=898)	1.1%	70.9%	0.6%	0.6%	0.2%	3.9%	15.0%	5.0%	2.7%
	上位所得層(n=885)	0.9%	79.4%	0.1%	0.2%	0.2%	3.4%	10.8%	3.4%	1.5%

市民アンケート中間報告概要

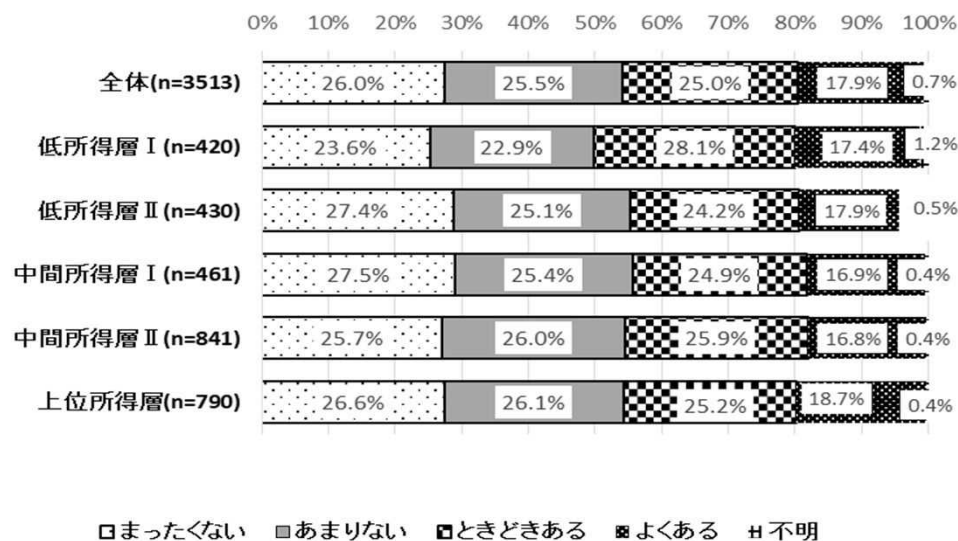
平日の放課後一緒に過ごす相手 ※ 小5、中2、高2の子どもが回答

- 世帯全体では、平日の放課後、一人でいることが「よくある」「ときどきある」と回答した者の割合は併せて42.9%である。
- ひとり親世帯の子どもは、ふたり親世帯の子どもに比べ、平日の放課後、一人でいることが「よくある」と回答した者が多く、逆に「まったくない」と回答した者が少ない。
- 平日の放課後、一人で過ごすかどうかに関して、所得階層による違いはほとんどみられなかった。

放課後過ごす相手に一人でいると回答した割合(世帯類型)



放課後過ごす相手に一人でいると回答した割合(所得階層)



市民アンケート中間報告概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響：家計への影響について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 世帯全体では、「世帯収入が減った」21.6%、「世帯の支出が増えた」17.9%、「世帯の貯蓄が減った」13.9%であった。
- 「あてはまるものはない」と回答した割合は、所得階層が低くなるほど小さくなり、ひとり親世帯、低所得層ほど、家計への負の影響がより大きいことがうかがえる。

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●家計への影響					※複数回答
		世帯収入が 減った	世帯の支出が 増えた	世帯の貯蓄が 減った	あてはまるも のはない	不明	
全体	(n=7282)	21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%	
世帯類型	ひとり親世帯 (n=805)	27.8%	19.6%	17.3%	46.0%	4.2%	
	ふたり親世帯 (n=6371)	20.8%	17.7%	13.5%	56.8%	2.5%	

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●家計への影響					※複数回答
		世帯収入が 減った	世帯の支出が 増えた	世帯の貯蓄が 減った	あてはまるも のはない	不明	
全体	(n=7282)	21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%	
所得階層	低所得層 Ⅰ (n=842)	38.0%	21.6%	20.5%	37.1%	2.0%	
	低所得層 Ⅱ (n=1040)	32.9%	23.6%	21.9%	39.2%	1.3%	
	中間所得層 Ⅰ (n=1122)	25.0%	19.9%	17.9%	50.8%	1.5%	
	中間所得層 Ⅱ (n=1905)	17.4%	18.6%	12.4%	60.3%	0.8%	
	上位所得層 (n=1672)	9.6%	11.9%	5.3%	75.8%	1.0%	

市民アンケート中間報告概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響：子どもへの影響について

※ 2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

- 回答の中では、いずれの世帯も「あてはまるものはない」の割合が一番多いが、ひとり親世帯の場合、「学習への支障」「生活リズムのくずれ」の影響が比較的大きく出ている。また、ふたり親世帯では、「習い事への支障」の影響が比較的大きく出ている。低所得層では、「学習への支障」、「体力・ケガの増加」「精神的不安定」への影響が、比較的大きく出ている。
- 影響の出る項目が世帯類型や所得階層の違いにより、やや異なるパターンを示している。

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●子どもへの影響									※複数回答
		学習に支障が でた	習い事などに支 障がでた	遊びや友だちづ きあいに支障が でた	生活リズムがく ずれた	体力が落ちたり、精神的に不安 定になったり、 ケガをしやす くなった	ゲームや動画 の視聴時間が 増えた	あてはまるもの はない	不明		
全体(n=7282)		13.0%	23.8%	26.4%	21.9%	9.4%	7.2%	18.1%	32.4%	2.0%	
世帯類型	ひとり親世 帯 (n=805)	19.6%	17.9%	24.8%	31.9%	11.8%	8.3%	8.6%	30.9%	3.1%	
	ふたり親世帯 (n=6371)	12.1%	24.7%	26.7%	20.6%	9.1%	7.0%	19.3%	32.7%	1.7%	

		新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響 ●子どもへの影響									※複数回答
		学習に支障が でた	習い事などに支 障がでた	遊びや友だちづ きあいに支障が でた	生活リズムがく ずれた	体力が落ちたり、精神的に不安 定になったり、 ケガをしやす くなった	ゲームや動画 の視聴時間が 増えた	あてはまるもの はない	不明		
全体(n=7282)		13.0%	23.8%	26.4%	21.9%	9.4%	7.2%	18.1%	32.4%	2.0%	
所得階層	低所得層 Ⅰ (n=842)	15.7%	17.1%	26.1%	29.6%	11.2%	10.5%	16.5%	30.0%	2.9%	
	低所得層 Ⅱ (n=1040)	13.6%	23.2%	26.3%	25.3%	10.8%	7.6%	23.3%	29.5%	0.8%	
	中間所得層 Ⅰ (n=1122)	12.2%	23.6%	27.4%	22.0%	9.6%	8.2%	20.8%	30.3%	1.3%	
	中間所得層 Ⅱ (n=1905)	12.8%	25.1%	27.2%	20.3%	8.6%	6.9%	19.1%	33.6%	0.7%	
	上位所得層 (n=1672)	11.8%	26.8%	25.2%	18.1%	8.8%	5.0%	14.1%	36.0%	0.7%	

市民アンケート中間報告概要

成果指標関係

●計画成果指標のうち、5年に1度の子どもの生活実態調査でのみ把握できるものについて、平成28年度との比較を行ったが、いずれも数値は改善している。

区役所の相談窓口に子育てや生活について相談する方法を知らなかった世帯の割合	H28	R3	目標値(R4)
	6.0%	3.5%	0%
子どもがいる世帯のうち、家計の状況がぎりぎりまたは赤字である世帯の割合	H28	R3	目標値(R4)
	62.6%	50.4%	50.0%
ひとり親家庭の親(母子家庭)の就業者に占める正規の職員の割合	H28	R3	目標値(R4)
	35.8%	44.3%	45.0%